平成27年度　ＦＤ活動報告　　高等教育推進機構

１　ＦＤ活動の実施体制、取り組みの概要

・機構ＦＤ委員会が機構全体のＦＤ活動を実施するとともに、科目グループごとに教育改善のための話し合いと実践を行っている。

・本年度は、機構ＦＤセミナーを3回実施した。全学のＦＤセミナー、ＡＰ事業と合わせ、多彩なＦＤ行事が行われた。

・高等教育推進機構で開設している全科目を対象として、ポートフォリオ（授業ふり返り）データを基に、優れた授業を実践している12名の先生方を選出して機構長教育奨励賞を授与した。学生の学びと理解を促しているかどうかを判断材料に加えることにより、学生の満足度に偏らないような選考方法とした。

・機構開設科目のGPCについて、科目グループごとに検証作業を行い、機構ＦＤ委員会で報告した。

・「アカデミック・ライティング」編集委員会により、昨年度発行した冊子の改訂版『アカデミック・ライティング入門』を作成、発行した。(2016年3月、4000部発行)

２　ピア授業参観実施状況

期間	被参観授業数	参観者数	特記事項
前期	11	17(9)	・機構長教育奨励賞受賞者に授業公開を依頼し、積極的に案内した。ビデオ撮影しＤＶＤ貸し出しも行った。 () 内は非常勤講師の参加数（ビデオ視聴含む)。
後期	2	2	
年度合計	13	19	

３　ＦＤに関する講演会、セミナー、ワークショップの開催状況

開催日	内容（タイトル等）	種別	参加者数
8月 7日	『デジタル時代における高等教育の新地平-MOOCの先に見えてきたもの』講師：船守美穂氏（東京大学 教育企画室 特任准教授）	セミナー	30
10月16日	「授業での学生の学びを促すひと工夫　クリッカー活用法」	セミナー	30
2月 4日	「共通教育英語カリキュラム『Academic English』の内容と学生アンケートの結果紹介」	セミナー	37
11月11日	初年次ゼミナール報告会（高等教育推進機構主催）	報告会	36

４　ＦＤに関する会議、委員会の開催状況

会議・委員会名	内容	回数	委員数
機構ＦＤ委員会	機構全体のFD活動を企画、実施	8	9

５　その他取り組みの具体的実施状況

《科目グループによる活動》

＜教養＞

・教養科目グループの 6 人の教員が中心となって、教養科目「近代を問う」（水４後期、テーマ「流動・移動」）を共同運営した。

・初年次ゼミナール報告会（11 月 11 日）および次年度説明会（11 月 9 日、11 日）を開催した。

＜英語＞

1. Implementation of TOEIC testing for first- and second-year students; Data was collected and student performance was monitored.
2. Data from a questionnaire students completed in January 2015, which was designed to evaluate the new curriculum, “Academic English” which was introduced in 2012. Student survey results were collated and analyzed and a report was presented in February 2016.
3. In addition to the regular curriculum, extracurricular courses were held in TOEIC test preparation, English pronunciation introductory course 2015, Osaka Prefecture University summer elementary school English course offered in collaboration with the CALL (Computer Assisted Language Learning) system support Office.
4. Information briefing/sharing sessions for Part-time Staff were held in March, April and December to exchange ideas and improve teaching practices through discussions about what is being taught in classes and how English is taught.
5. Extracurricular classes in English Conversation were offered for students in Semester Two as part of the “The English Café” programme.
6. A range of seminar courses in academic writing, advanced academic reading, presentation, media English, exam practice for English Proficiency exams, as well as a course to improve cross-cultural communication were offered to further improve students’ English ability.
7. Pre-departure Orientation courses were offered for students attending intensive English Language Study Abroad Programmes in the USA, UK and Australia. Study Abroad Guides were produced for the programmes at Monash College, Australia, University of California Irvine in the USA, School for English Studies in Folkestone, UK as well as for students participating in the year-long exchange programme at the University of Technology, Sydney. Research is on-going into maximizing the experience overseas for students participating in these programmes. Post-return Events were conducted for students returning from the UK and the USA.

＜初修外国語＞

(1) 学習支援

・ 新入生に初修外国語の概要とカリキュラムを説明するためのパンフレットを作成した。

［独・仏・中・韓］

・ 後期の学期末に1年次生には2年次生向け中級クラスを紹介するビラを、2年次生には3年次向けクラスを紹介するビラを配布し、初修外国語の継続学習を勧めた。［独・仏・中・韓］

・ 海外語学研修について説明会を開催した。［仏・韓］

・ 一部のクラスで、以前初修外国語グループで作成し、現在もインターネット公開中のポッドキャスト教材（ダウンロードできるインターネット放送、音声や PDF を配信中）を使用して授業を実施した。［独・仏］

・ 授業支援システムを利用して自習用教材を配布した。［中］

・ 一部のクラスで府大生向けの独自教材（音声ファイル付き）を授業において使用した。［中］

・ 一部のクラスで学習成果をアウトプットするために iPad を用いた動画作成を行った。［中］

・ 一部のクラスで iPad の音声入力アプリを利用した発音学習を行った。［中］

・ 一部のクラスで教科書以外の教材として「中国語会話の基礎知識」を作成し、使用した。［中］

・ 学生のフランス語によるアウトプットを促進し、フランスへの理解をより深めるため、学内のフランス人留学生に呼びかけ、複数回授業に参加してもらい、授業外での積極的な交流を促した。［仏］

・ 教室と外の世界をつなぐ活動として、フランス在住のフランス人宛にフランス語特有の筆記体でクリスマスカードを作成し、課題として提出させた。［仏］

・ 学生のフランス語学習のモチベーションをより高めるため、フランス語検定や DALF、TCF などの試験を紹介し、積極的な受験を勧め、準備のための教材を紹介し、貸出した。

(2) FD に関する研究活動

・ 関西フランス語教育研究会年次大会、国際フランス語教育学会、国際シンポジウムにおいて授業実践報告として口頭発表を行い、語学研修報告書の改善など様々なテーマで発表を行った。［仏］

・ セミナー「ICT を活用した外国語教育―中国語教育を中心に―」（中央大学多摩キャンパス）において講師を務め、資料をインターネットで公開した。［中］
http://www.las.osakafu-u.ac.jp/~kiyohara/WS/20151030/index.html

・ 「ICT を活用した外国語学習―中国語学習とスマートフォンを中心に―」（大谷大学中国文学会学術公開講演会）において講師を務め、資料をインターネットで公開した。［中］
http://www.las.osakafu-u.ac.jp/~kiyohara/WS/20160108/index.html

(3) 教員研修

・授業のレベル設定に用いている「ヨーロッパ言語共通参照枠」に基づいた、学習者の言語能力レベル判定のための研修を受講した。［仏］。

＜健康・スポーツ科学＞

健康・スポーツ科学概論、教養科目、教養展開科目の講義科目については、受講生が生涯にわたる健康に関する知識や実践力を獲得できるよう、各教員が個々の専門領域を中心として講義を行った。また課題の提示などで「授業外学習」を促進するよう働きかけを行った。

健康・スポーツ科学演習科目は、受講生からの要望に対応した授業展開、設備・教材などの整備を行った。その結果、充実した授業展開ができ、受講生からも高い評価を受けた。これまで日陰エリアのなかったテニスコートには「日除け」を設置し、直射日光下のリカバリースペースが確保できた。これらのことから受講中の受傷や熱中症の発生も激減し、安全で快適な授業環境が確保できたと考えている。

また、平成 27 年度機構プロジェクト型研究として『生涯の健康管理における身体運動データの活用Ⅱ 1）呼気ガス分析を用いて』と『同（２）身体活動量（心拍数、歩数など）を用いて』を連動して行った。昨年度からの継続研究であるが、自身の健康について科学的な手法で能動的に管理する意識と能力について理解を高めることができた。

＜理科＞

・SEL 教室：引き続き、前年度までの接続教育教材に加えて、26 年度に府立大学独自に作成した教材を提供した。

・科目運営、成績評価：引き続き、学類を分割し複数のクラスで複数の教員が担当実施する科目について、担当教員間で情報を共有して授業を実施した。成績評価について教員間で情報を共有し、協議しつつ成績評価を行ない評価の公平性を確保した。学生の自主的・自律的な学習を促す取り組みを進めた。

・学生実験：引き続き、複数のテーマを同時に並行して実施する実験科目について、タブレット端末で提供する教材開発および、解析システム等の開発を行った。前年度に開発した実験テーマを実施し、評価、改善を行った。また、新たな実験テーマ開発を行った。

引き続き実験レポートの評価基準、プレゼンテーションの評価基準の検討をおこなった。

＜数学＞

・専門基礎科目ミーティングを実施し、授業の進め方、成績評価の仕方、試験内容などについて話し合った。

・数学質問受付室を設けた。

・微積分学の演習書の執筆に向けて問題の収集および選定などの準備作業を行った。演習書の原稿が完成し授業等で使用する事もあった。

H28 年度の活動計画　　高等教育推進機構

1. FD 委員会活動

(1) ピア授業参観

今年度も、ピア授業参観の促進期間を設け、教員が参観しやすい環境を整えていく。機構長奨励賞受賞者に授業公開をお願いし、オススメ授業として授業参観を呼びかける。

後期の参観実績が少ないことから、今年度は後期の促進期間を 2 週間前倒しする。

(2) 機構 FD セミナーの開催

今年度も 2 回程度、セミナー、ワークショップを開催する。ただし、全学のＦＤ行事、ＡＰ事業との連携、共催も検討する。

(3) 機構長教育奨励賞の授与

機構長教育奨励賞の選考を行う。

(4) 授業時間外学習の増加について

学生調査データ、ポートフォリオデータの分析を行い、授業時間外学習時間を増やすための方策について検討を行う。さらに、学域制 4 年間の教育活動と学習状況を点検し、課題の抽出、対策の検討を行っていく。

2. 科目グループにおける活動

＜教養＞

・教養科目グループの教員が中心となって、教養科目「近代を問う」（水４後期、テーマ「流動・移動」）を共同運営する。

・初年次ゼミナール報告会および次年度説明会を開催する。

・ＡＰ事業と共同で、大人数講義に関するＦＤ企画を実施する。

＜英語＞

1. Implementing TOEIC testing for first year students; collecting data and monitoring student performance.
2. Delivery and managing of extracurricular classes in CALL (Computer Assisted Language Learning) to assist students undertaking English Proficiency tests and to improve their practical English language skills and pronunciation.
4. Scheduling of information briefing/sharing sessions for Part-time Staff in March, April and December to improve teaching practice.

5. Promoting student participation in two English Language Study Abroad Courses, and work on producing an online course Pre-departure Orientation course to help maximize students' learning experience overseas.

＜初修外国語＞

- 新入生に初修外国語の概要とカリキュラムを説明するためのパンフレットを作成する。［独・仏・中・韓］。
- 学習・教育支援サイト、授業支援システムを活用した学習支援を行う。［独・仏・中］
- 海外語学研修に関する説明会を開催する。［仏・韓］
- FD 研修に積極的に参加し、知見を深める。［独・韓］
- 海外語学研修をリニューアルする。［仏］
- 他大学のフランス語学習者との交流をはかる。学生の学びのコミュニティの場として、SNS を活用し、学習者間でフランス語での交流を試みる。［仏］
- 留学生との交流を通して学びの実践の場を作る。［仏］
- 自宅学習用ツール「WEB なびふらんせ」を導入し、ポートフォリオ機能を使って学生に学びのふりかえりを促し、モチベーション維持、向上をはかる。［仏］
- フランス語教育学会、及び国際フランス語教授連合世界大会で発表を行い、関西フランス語教育研究会での実践報告を行う予定である。更に教育方法論に関する研究についても発表を行う。［仏］
- フランス語検定や DALF、TCF などの試験を紹介し、積極的な受験を勧め、準備のための支援を行う。
- 学内のフランス語圏からの留学生との積極的な交流を促す。［仏］
- 独自教材を作成し、授業において使用する。［中］
- 一部のクラスで使用している既存の独自教科書について、大幅な改訂を行う。［中］
- ➢ 平成 27 年度に引き続き、一部のクラスにおいて iPad を利用した発音学習、動画作成による学習成果のアウトプット等を行う。［中］
- 個人研究として音声付き電子書籍を一部のクラスにおいて試用する。［中］

＜健康・スポーツ科学＞

1) 平成 27 年度までの FD 活動を継続するとともに、FD セミナーなどへの積極的な参加により、FD に対する意識づけとさらなる拡充を目指す。
2) これまで実施してきた機構プロジェクト型研究の成果を各授業に適用することで、学生の知的好奇心の充足を図り、さらに魅力ある授業の展開を目指す。
3) 教養科目、演習科目等における「学生の授業振り返り（授業アンケート）」の活用や、ピア授業参観の実施など通して、双方型授業の展開と PDCA による継続的改善を運用していく。また授業アンケートの回答数が少ない授業については、回答を促すような働

きかけを行っていく。

4) 体育教育施設の整備、教材の精選などを適宜行い、さらなる授業の質的向上を目指し、学生満足度の高い効果的な授業の展開を行う。

＜理科＞

・SEL 教室：引き続き、接続教育教材を提供する。

・科目運営、成績評価：

担当教員の変更に伴い、学類を分割し複数のクラスで複数の教員が担当実施する科目について、さらに教員間で情報を共有して授業を実施する。

成績評価について教員間で情報を共有し、協議しつつ成績評価を行ない評価の公平性を確保する。

学生の自主的・自律的な学習を促す取り組みをさらに進める。

・学生実験：

引き続き、タブレット端末で提供する教材開発および、解析システム等の開発を行い、教育効果を高める。

新たに開発した実験テーマを実施し、評価、改善を行う。

実験レポートの評価基準、プレゼンテーションの評価基準の検討をさらに進める。

＜数学＞

・専門基礎科目ミーティングを実施し、授業の進め方、成績評価の仕方、試験内容などについて話し合う。

・数学質問受付室を設ける。

・微積分学の演習書の完成に向けて編集委員会を立ち上げた。来年度に間に合う様に完成を目指す。